令 和 5 年 度

南 浦 和 中 学 校 シ ラ バ ス

（ 学 習 案 内 ）

さいたま市立南浦和中学校

各教科の評価・評定について

１　観点別学習状況についての評価

・観点は「知識・技能」「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」の３つです。

・毎学期、各教科の学習状況（授業・提出物・テストなど）を観点別に「Ａ・Ｂ・Ｃ」の３段階で評価します。

・「Ａ・Ｂ・Ｃ」は観点ごとの生徒の学習状況を次のように表したものです。

Ａ：「十分満足できる」状況　　Ｂ：「おおむね満足できる」状況　　Ｃ：「努力を要する」状況

２　評　　定

・上記の「観点別学習状況についての評価」結果を総括したものを「評定」といいます。

・「評定」は「５・４・３・２・１」の５段階です。

・「５・４・３・２・１」は、各教科における学習目標の実現状況を次のように表しています。

５：「十分満足できるもののうち、特に程度が高い」状況と判断されるもの
４：「十分満足できる」状況と判断されるもの
３：「おおむね満足できる」状況と判断されるもの
２：「努力を要する」状況と判断されるもの
１：「一層努力を要する」状況と判断されるもの

３　評定へのまとめ方【　全教科共通　】

・観点ごとの「Ａ・Ｂ・Ｃ」の評価をもとに、次のように「５・４・３・２・１」の評定にまとめます。

観点別評価の組合わせ	評定
ＡＡＡ	**５**
ＡＡＢ	４
ＡＢＢ・ＢＢＢ・ＢＢＣ	３
ＢＣＣ	２
ＣＣＣ	**２または１**

・３つの観点の重みに差はないので、「Ａ・Ｂ・Ｃ」の順序は問題にしません。

・「ＡＣＢ」は「ＢＢＢ」とみなします。

・学年評定については、「ＡＡＡ」で５または４の場合があります。

４　「総合的な学習の時間」および「道徳」の評価

・１年間の学習を振り返り、本校で設定した評価の観点に従って、年度末に文章で記述します。

国 語 科

＜第１学年　学習到達目標＞
【知識及び技能】
　社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の言語文化に親しんだり理解したりすることができる。
【思考力、判断力、表現力】
　筋道を立てて考える力や豊かに感じたり想像したりする力を養い、日常生活における人との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを確かなものにすることができる。
【学びに向かう力、人間性】
　言葉がもつ価値に気付くとともに、進んで読書をし、我が国の言語文化を大切にして、思いや考えを伝え合おうとする態度を養う。

＜第２学年　学習到達目標＞
【知識及び技能】
　社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の言語文化に親しんだり理解したりすることができる。
【思考力、判断力、表現力】
　論理的に考える力や共感したり想像したりする力を養い、社会生活における人との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができる。
【学びに向かう力、人間性】
　言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を生活に役立て、我が国の言語文化を大切にして、思いや考えを伝え合おうとする態度を養う。

＜第３学年　学習到達目標＞
【知識及び技能】
　社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の言語文化に親しんだり理解したりすることができる。
【思考力、判断力、表現力】
　論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を養い、社会生活における人との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができる。
【学びに向かう力、人間性】
　言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を通して自己を向上させ、我が国の言語文化に関わり、思いや考えを伝え合おうとする態度を養う。

＜評価について＞
　国語科の授業では、３観点について１～３を組み合わせて評価をします。

１　授業中の活動の評価
　学習に向かう姿勢や発言の内容などから評価をします。また、スピーチや話し合い活動などの様子も評価します。
２　学習の成果物や提出物
　授業の中で制作した作品や、書き込んだワークシート、また、ワークブックやまとめのプリントなどの学習状況を確認し評価します。
３　各種テストによる評価
　定期テストや小テストなどの結果から学習の到達状況を評価します。

<第１学年>

学期	学習のねらい	単元名・教材名	学　習　内　容	ﾁｪｯｸ
1 学 期	・詩の表現方法から作者の思いについて考えます。 ・物語と小説の構成や展開の違いについて考えます。 ・文章の構成を捉えて要約に生かします。 ・漢字と仮名の調和を考えて書きます。 ・文章、段落、文、文節、単語という単位について学習します。 ・読書の世界を広げます。	ふしぎ 桜蝶 自分の脳を知っていますか 硬筆 言葉の単位(文法) ベンチ	・詩のリズムに注意した音読の仕方 ・表現技法(倒置法など) ・心情や主題の読み取り ・文章の構成、展開 ・筆者の考えとその根拠 ・楷書の書き方 ・言葉の種類や用法 ・本や文章からの情報収集	
2 学 期	・古典作品のおもしろさを味わいます。 ・古文の仮名遣いに慣れます。 ・古典文学に親しみます。 ・故事成語の由来や意味を学習します。 ・表現の特徴や効果について考えます。 ・筆者の考えや述べ方を踏まえ、根拠を明確にしながら考えをまとめます。 ・主語、述語、修飾語など文の成分の役割について学習します。 ・場面と人物の対応を捉えて読みます。 ・楷書の点画の筆使いと字形を理解して書きます。	古典の扉を開く(川柳・説話) 物語の始まり(竹取物語) 故事成語 オツベルと象 森には魔法つかいがいる 文の成分(文法) 河童と蛙 毛筆(書きぞめ)	・古典作品との出会い ・伝統文化への興味、関心 ・歴史的仮名遣い ・古文のリズム ・冒頭部分の暗唱 ・日常生活の中の故事成語 ・漢文の基礎知識 ・人物像の読み取り ・表現の特徴や工夫とその効果 ・論理の展開の仕方 ・筆者の考えの要約 ・主語、述語、修飾語などの役割 ・情景の読み取り ・表現技法 ・楷書の書き方 ・筆使い	
3 学 期	・言葉の書き分けに注目して、分かることを考えます。 ・作品が提起していることについて話し合います。 ・自立語と付属語、活用の有無などの、分類の基準について学習します。 ・文章の構成や表現の特徴を捉えて読みます。 ・筆者のものの見方や考え方を捉えます。	少年の日の思い出 単語のいろいろ(文法) 子どもの権利 言葉がつなぐ世界遺産	・感想の書き方 ・心情と主題の読み取り ・文章表現(比喩表現) ・登場人物の整理、比較 ・品詞のはたらき ・文章構成、展開 ・表現の仕方の工夫 ・筆者のものの見方・考え方 ・要約 ・自分の考え	

<第２学年>

学期	学習のねらい	単元名・教材名	学　習　内　容	ﾁｪｯｸ
1 学 期	・詩を読んで情景を想像するとともに、表現の特徴を学びます。 ・描写の効果や登場人物の言動の意味に注意して、文学作品を読み深めます。 ・似た形やまちがえやすい漢字の理解を深めます。 ・活用のない自立語を理解します。 ・説明的文章を読んで、例示の効果について考えます。 ・文章の構成や展開の特徴について、根拠を明確にして、自分の考えをまとめます。 ・漢字と仮名の調和を振り返り、配列を考えて書きます。	虹の足 タオル まちがえやすい漢字 言葉のきまりの学習① 活用のない自立語 日本の花火の楽しみ 夏の葬列 硬筆	・詩のリズムに注意した音読の仕方 ・表現技法 ・心情と主題の読み取り ・登場人物の整理、比較 ・漢字の構成や意味 ・活用のない自立語の種類や用法 ・文章の構成 ・例示の効果 ・情景や人物描写 ・表現技法やその効果 ・根拠を明確にした文章表現 ・漢字と仮名の調和 ・配列	
2 学 期	・古典のことばの響きやリズムなどに注意して朗読します。 ・言葉の意味を正確に捉えながら読み、筆者の思いを想像します。 ・漢文の響きやリズムなどに注意し、朗読します。 ・近代文学の魅力に触れます。 ・活用のある自立語を理解します。 ・文章の構成や表現の仕方について、根拠を明確にして、自分の考えをまとめます。 ・行書の特徴を理解し、読みやすく書きます。	敦盛の最期 随筆の味わい 孔子の言葉 坊っちゃん 言葉のきまりの学習② 活用のある自立語 水の山　富士山 ガイアの知性 毛筆（書きぞめ）	・作者と作品 ・歴史的仮名遣い ・暗唱（冒頭部分）　朗読 ・筆者と作品 ・情景や心情の読み取り ・二つの作品の読み比べ ・漢文の訓読 ・朗読 ・自分の考えの形成 ・文学作品の味わい方 ・読書計画 ・用言の活用、活用の種類 ・文章構成、表現の仕方 ・二つの文章の読み比べ ・根拠を明確にした文章の形成 ・行書の特徴	
3 学 期	・「学ぶ力」という問題提起について自分の考えをもちます。 ・付属語を理解します。 ・登場人物の心情や言動を捉え、人間の生き方について考えます。	学ぶ力 言葉のきまりの学習③ 付属語 走れメロス	・文章構成や展開 ・表現の特徴 ・立場を明確にした文章表現 ・助詞の種類、用法 ・助動詞の種類、活用 ・情景や心情 ・登場人物の人物像 ・主題の読み取り	

<第３学年>

学期	学習のねらい	単元名・教材名	学　習　内　容	チェック
1 学 期	・詩に描かれた「気持ち」と比較しながら自分の気持ちを見つめます。 ・作者の思いを想像します。 ・文章の種類と特徴について理解を深めます。 ・付属語を理解します。 ・漢字と仮名の調和を振り返り、配列を考えて書きます。 ・現代文学のおもしろさに触れます。 ・筆者の考えと具体例の関係を読み取り、文章の構成をとらえます。	春に 立ってくる春 なぜ物語が必要なのか 付属語 硬筆 私 メディア・リテラシーはなぜ必要なのか？	・表現の特徴をとらえた朗読 ・内容の読み取り ・随筆の読み方 ・助詞の種類、用法 ・助動詞の種類、活用 ・行書の特徴 ・文章の構成、要旨 ・筆者の意見の読み取り ・論理的文章の読み取り	
2 学 期	・筆者のものの見方や考え方を捉え、自分の考えをまとめます。 ・情報をもとに自分の意見をもちます。 ・俳句と俳文が並んでいる効果を考え、筆者の思いをとらえます。 ・言葉にこめられた作者の思いを考えながら歌や詩の意味を考えます。 ・行書の特徴を理解し、読みやすく書きます。	ＡＩは哲学できるか ａｓｙｎｃ－同期しないこと 問いかける言葉 旅への思い 芭蕉と「おくの細道」 和歌の調べ(万葉・古今・新古今) 風景と心情 漢詩を味わう 毛筆（書き初め）	・事例や筆者の主張の読み取り ・考えの組み立て ・意見の発表 ・冒頭文の暗唱 ・歴史的仮名遣い ・古文のリズム ・和歌の音読 ・内容の読み取り ・漢詩のリズム ・行書の特徴	
3 学 期	・読んで印象に残ったころや感じたことをまとめ、発表します。 ・主人公にとって「故郷」の意味を考えそれに対する考えをもちます。 ・自分の経験や知識を整理して考えをまとめます。	故郷 スピーチで学びを振り返る	・登場人物の心情と主題の読み取り ・自分の考えのまとめかた ・効果的な言葉の使い方 ・自分の考えのまとめ方と伝え方	

社　会　科

1．学習の目標

・広い視野を持って、社会に関する関心を高めよう。
・さまざまな資料を活用して、いろいろな面、いろいろな角度から物事を考えよう。
・日本の歴史や現在の様子について理解と愛情を深めよう。
・参政権をもつ人としての基礎的な教養を身につけよう。
・平和で民主的な国際社会づくりに貢献できる人として必要な力を育てよう。

2．学習の方法

（1）意識してほしいこと

世の中は常に変化しています…特に今はグローバル化が進んでいて、世界で活躍できる人材が求められています。

↓

①普段から世の中の動きを敏感にとらえるようにしましょう。（新聞・ニュース・授業）
②「いつ・どこで・誰が（何が）・何を・どのように・なぜ・その後は…」と常に疑問をもって物事を見るようにしましょう。（真実・物事の根本が見えるようになるはずです。）
③疑問に思ったことなどを自分で調べ、自分なりに公正な考えをもち、行動できるようにしましょう。

（2）家庭学習において

①社会の授業があった日には、教科書やノートなどを見直して、「今日の授業の中で一番大切なことは何か」「（少しでも）わからないことはないか」などを考えたり、確認したりしながら復習をしましょう。
②授業で行った作業などが未完成のときは、必ずその日のうちに完成させましょう。
③授業の中で、もう少し詳しく知りたい、調べたいことがあったら、資料集などで確認し、それをノートまとめに盛り込んでみましょう。
④テスト前の家庭学習は…
・教科書、ノート、資料集などを見直しましょう。
・重要と思われる語句などをノートに書き出しましょう。
・配付されたプリントなどを活用しましょう。

3．学習の内容

≪第１学年（年間 105 時間≫

【地理的分野】

第１編　世界と日本の姿
　第１章　世界の姿　　第２章　日本の姿
第２編　世界のさまざまな地域
　第１章　世界各地の人々の生活と環境　　第２章　世界の諸地域

【歴史的分野】

第１章　歴史へのとびら
第２章　古代までの日本
第３章　中世の日本

≪第2学年（年間105時間≫

【地理的分野】
第３編　日本のさまざまな地域
第１章　地域調査の手法　　第２章　日本の地域的特色と地域区分
第３章　日本の諸地域　　第４章　地域の在り方
【歴史的分野】
第４章　近世の日本
第５章　開国と近代日本の歩み

≪第3学年（年間140時間≫

【歴史的分野】
第６章　二度の世界大戦と日本
第７章　現代の日本と私たち
【公民的分野】
第１章　現代社会と私たちの生活
第２章　個人の尊重と日本国憲法
第３章　現代の民主政治と社会
第４章　私たちの暮らしと経済
第５章　地球社会と私たち
終　章　より良い社会を目指して

4. 評価について

（1）評価の観点

①基礎的・基本的な「知識・技能」
社会的な事柄についての基本的な知識を身につけているかや、適切な資料を効果的に活用し、工夫してまとめることができるかなどの基本的事項が習得できているかを見ます。

②社会的な見方・考え方を働かせた「思考・判断・表現」
社会的な事柄について、さまざまな見方や考え方ができるか、公正に判断して適切に表現できるかを見ます。

③「主体的に学習に取り組む態度」
自らの学習を調整しようとしながら粘り強く取り組んでいるかや、主体的に社会にかかわろうとする態度があるかを見ます。

（2）評価の方法

①３つの観点それぞれをA～Cの３段階で評価し、これに基づき５～１の５段階で評定します。

②学習に向かう姿勢や発言の内容、提出物、定期テスト、授業用ノート、ワークシート、レポートなどを組み合わせて総合的に評価します。

「数学」

（1）目標

数学的な見方・考え方を働かせ、数学的活動を通して、数学的に考える資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

①数量や図形などについての基礎的な概念や原理・法則などを理解するとともに、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。

②数学を活用して事象を論理的に考察する力、数量や図形などの性質を見いだし統合的・発展的に考察する力、数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表現する力を養う。

③数学的活動の楽しさや数学のよさを実感して粘り強く考え、数学を生活や学習に生かそうとする態度、問題解決の過程を振り返って評価・改善しようとする態度を養う。

（2）学習の方法

①授業を充実させましょう。話を聞く時間、課題に対して考える時間、自力で問題解決をする時間、学び合う時間などメリハリをつけて取り組むことが大事です。また、持ち物は忘れないようにしましょう。

②数学の楽しさやよさを実感できるように意識しましょう。数学の学習は問題解決までのすじ道を順序を立てたり根拠を明らかにしたりしてある１つの結果を導き出す学習です。解決方法が複数であったり、より簡潔であったりすることも面白さにつながります。色々な考え方・見方を身に付けましょう。

③自分の力で挑戦しましょう。例題や他人の解いた様子を眺めているだけでは数学的な能力は身に付きません。本当に理解したのかを把握するためにも、必ず自分で問題解決に臨んでみましょう。また、一度解けただけでは身に付きません。問題解決の流れを繰り返し練習していきましょう。そのきっかけとなる宿題は必ず期限を守って提出できるようにしましょう。

④わからない問題にも粘り強く取り組みましょう。答えが出なかったとしても、解くために考えた過程は無駄になりません。自分の解決までの過程を見つめ直し、よりよい解決方法を見いだしていくことが本当の学習であり、本当の能力を伸ばすことにつながります。どうしてもわからない問題は質問に来るようにしましょう。

（3）学習の内容

	A　数と式	B　図形	C　関数	D　データの活用
第１学年	正の数・負の数 文字を用いた式 一元一次方程式	平面図形 空間図形	比例、反比例	データの分布の傾向 多数の観察や多数回の試行によって得られる確率の必要性と意味
第２学年	文字を用いた式の四則計算 連立二元一次方程式	基本的な平面図形と平行線の性質 図形の合同	一次関数	データの分布の比較 場合の数を基にして得られる確率
第３学年	平方根 式の展開・因数分解 二次方程式	図形の相似 円周角と中心角 三平方の定理	関数 $y = ax^2$	標本調査

（４）評価について

観　　点	
知識・技能	・数量や図形等に関する基礎的な概念や原理・法則などについて理解している。 ・事象を数量や図形などで数学的に表し処理する。
思考・判断・表現	・事象を数学的にとらえて論理的に考察し表現する。 ・考察過程をふりかえって考えを深める。
主体的に学習に取り組む態度	・学習内容に関心をもち、自ら課題に取り組もうとする。 ・数学的な事象に関心をもつ。 ・数学的活動の楽しさや数学のよさを実感し、数学を活用して考えたり判断しようとしたりする。

・３観点をそれぞれＡ・Ｂ・Ｃの３段階で評価し、これに基づき５・４・３・２・１の５段階で評定に総括します。
・学習に向かう姿勢や発言の内容、ワークやドリルなどの提出物、ノート、授業プリント、テストを組み合わせて評価します。

【理科】

１．学習の目標

（１）身近な自然の事物や身の回りの現象に興味や関心を高めていき、意欲的に自然を調べる態度を身に付ける。
（２）問題解決に向けて目的をもって観察・実験を行い、科学的に調べる能力（課題を見つけ、観察・実験を行い、課題を解決していく力）や態度を育てる。
（３）身近な自然の事物や身の回りの現象について理解を深める。
（４）身近な自然の事物や身の回りの現象について科学的に見て考える力を養う。

２．学習の方法

（１）自然に対する興味・関心が理科の学習の出発点であり、最後のねらいであるといえます。自然のさまざまな事象に対して「なぜだろう」「どうなっているのだろう」という疑問を大切にし、それらを探求しようとする意欲をもって学習にのぞみましょう。
（２）自然から直接学ぶことが理科の学習の特色です。このため、理科の授業では観察や実験が重視されます。
（３）板書をノートに写すことは大切ですが、板書だけでは理解は難しいです。必ず、板書のあとの説明を聞き、理解につとめましょう。分からないことは、放っておかずに、先生に聞くように心がけましょう。
（４）５０分集中力を持続することは難しいです。メリハリをつけて、ゆるめるべき時はゆるめ、集中する時は集中することが大切です。
（５）提出物（実験プリントやワーク等）の提出期限は、必ず守るようにしましょう。

３．学習の内容

【１年】

いろいろな生物とその共通点	身の回りの物質	身近な物理現象	大地の成り立ちと変化
・自然の中にあふれる生命 ・植物の特徴と分類 ・動物の特徴と分類	・いろいろな物質とその性質 ・いろいろな気体とその性質 ・水溶液の性質 ・物質のすがたとその変化	・光による現象 ・音による現象 ・力による現象	・身近な大地 ・ゆれる大地 ・火をふく大地 ・語る大地

【２年】

化学変化と原子・分子	生物の体のつくりと働き	気象とその変化	電流とその利用
・物質の成り立ち ・物質の表し方 ・さまざまな化学変化 ・化学変化と物質の質量	・生物の体をつくるもの植物の体のつくりとはたらき ・動物の体のつくりとはたらき ・動物の行動のしくみ	・地球をとり巻く大気のようす ・大気中の水の変化 ・天気の変化と大気の動き ・大気の動きと日本の四季	・電流の性質 ・電流の正体 ・電流と磁界

【３年】

生命の連続性	化学変化とイオン	地球と宇宙	運動とエネルギー	自然と人間
・生物のふえ方と成長 ・遺伝の規則性と遺伝子 ・生物の種類の多様性と進化	・水溶液とイオン ・電池とイオン ・酸、アルカリと塩	・地球から宇宙へ ・太陽と恒星の動き ・月と金星の動きと見え方	・力の合成と分解 物体の運動 ・仕事とエネルギー ・多様なエネルギーとその移り変わり ・エネルギー資源とその利用	・自然界のつり合い ・さまざまな物質の利用と人間 ・科学技術の発展 ・人間と環境 ・持続可能な社会をめざして

４．評価について

（１）評価の観点

観　　点	摘　　要
知識・技能	・基本的な言葉の意味を説明することができる。 ・基本的な事象について、例をあげて説明することができる。 ・法則や規則性について、説明することができる。 ・測定器具を用いて、量を正確に測ることができる。 ・安全に配慮して器具を正しく操作し、観察・実験を行うことができる。 ・計画的に観察・実験を行い、記録をまとめることができる。 ・グラフ・表などを用い、正しく測定値を処理できる。
思考・判断・表現	・仮説を立て、それを解決するための実験方法を考え出すことができる。 ・観察・実験の結果から、規則性を見いだすことができる。 ・関連する２つの事柄について、その関係を説明することができる。 ・関連する事柄について、その共通点や違いを説明することができる。
主体的に学習に取り組む態度	・学習内容に関心をもち、主体的に課題に取り組もうとする。 ・自然に対して興味・関心をもつ。 ・自然の事物・現象について疑問をもったり不思議に思ったりした点について調べようとする。 ・自分の考え・意見を発表することができる。

（２）評価の仕方

３観点をそれぞれＡ・Ｂ・Ｃの３段階で評価し、これに基づき５・４・３・２・１の５段階で評定します。

（３）具体的な評価の方法

学習に向かう姿勢や発言の内容、観察・実験への取り組み、発言の様子、提出物、定期テスト、授業用ノート、ワークシート、観察・実験レポート等を組み合わせて評価します。

音　楽

1　音楽の学習目標**（お互いに思いを伝え合い、楽しく音楽と関わろう）**

・響かそう　→　一人ひとりの歌声の特徴を知り、その良さを生かし、より豊かな声で歌おう

・届けよう　→　音楽の表現方法を工夫して、その音楽の良さを聴き手に届けよう。

・伝えよう　→　様々な音楽の特徴を感じ取り、その良さや面白さを自分の言葉で表現し、伝えよう。

2　音楽の授業への取り組みについて

・自ら進んで、積極的に音楽活動に取り組もう。	意欲的に取り組むことで充実した音楽活動ができます。
・声量豊かな声をめざし、大きな声で歌おう。 **・南浦和中学校校歌を大きな声で歌おう。**	正しい発声方法を身につけ、声量豊かに歌おう。 より多く、音楽に心を動かされる体験をしよう。
・音楽の表現方法について語り合い、お互いの仲間意識を高めながら、音楽活動を行おう。	その音楽の特徴について、お互いに意見を交わし、その音楽の良さを共有しながら音楽活動を深めよう。
・気持ちを集中させて音楽を感じ取ろう。 **・その音楽のもっている魅力を体感しよう。**	聴く「耳」はもちろん、目や心もしっかりと集中させて音楽を全身で感じ取り、その面白さを味わおう。

3　音楽の用意　**教科書　音楽ファイル　合唱曲集　アルトリコーダー　筆記用具**

＊上記の道具を各自の手持ちの袋（通称音楽バック）に入れて音楽室に来てください。
音楽の道具は、教室のロッカーで保管して結構です。（学期末には、必ず家に持ち帰って下さい）

＊アルトリコーダーは、１年生の１学期中に、購入予定です。後日お知らせいたします。

4　授業時における活動方法

①　**歌唱活動**　→その場で起立し、ピアノ伴奏、CD 伴奏またはア・カペラで、全員で歌います。
各自良い姿勢、正しい発声方法で歌ってください。

②　**合唱活動**　→合唱コンクールに向けての活動を含みます。CD やピアノを使ってパート練習、及び合唱練習を行います。歌い方について話し合いをする等、主体的に活動します。

③　**器楽活動**　→アルトリコーダー等の器楽学習は、主に器楽の教科書を使い各自で練習します。

④　**鑑賞活動**　→CD または DVD で音楽鑑賞を行います。感じたことを感想用紙にまとめ、発表します。

⑤　**創作など**　→リズムや簡単なメロディを創作します。班ごとに発表します。

5　評価について

それぞれの観点	観点の具体的基準	観点の評価方法
知識・技能	・曲想、音楽の構造、歌詞の内容を理解している。 ・創意工夫するための音楽表現に必要な技能を身につけ、歌唱、器楽、創作で表している。	・鑑賞記録 ・活動の様子
思考・判断・表現	・音楽を形作っている要素や、その要素同士の関連を知覚し、それを感じ取ったことを創意工夫して表現できる。	・鑑賞記録 ・活動記録
主体的に学習に取り組む態度	・音楽活動を楽しみながら、主体的・協働的に表現や鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。	・提出物 ・活動の様子・記録 ・自己評価

6　主な授業内容について

期	１年生	２年生	３年生
1学期	・オリエンテーション　・新しい仲間とともに、のびのびと校歌を歌おう		
	・のびのびと歌おう ㊍青空へのぼろう **・日本語の抑揚を生かした旋律をつくろう** **・弦楽器の音色に親しもう** ㊎「春」第１楽章 **・日本の歌に親しみ、表現を工夫しよう** ㊍夏の思い出　㊍赤とんぼ **・リズムを楽しもう** ㊐くいしんぼうのラップ **・詩と音楽との関わり合いを感じ取ろう**　㊎魔王	**・歌詞の内容を味わい、表現豊かに歌おう** ㊍生命が羽ばたくとき **・音楽の仕組みを理解しよう** ㊎小フーガト短調 ㊎交響曲第５番ハ短調「運命」 **・リコーダーで表現を工夫しよう** ㊏アメージンググレース、故郷 **・リズムの違いを感じながら、リズムパターンをつくろう** ㊐リズムパターンをつくろう	**・歌詞が表す情景や心情を想像し、曲想を味わいながら、表現を工夫して歌おう** ㊍花、荒城の月 **・リズムの重なりを味わおう** ㊏ジョイフルコンビネーション **・オーケストラによる音楽表現を感じよう** ㊎ブルタバ、展覧会の絵 **・器楽アンサンブルを楽しもう** ㊏木星、メヌエット
	・合唱コンクール曲を聴き、各学級の演奏曲を決めよう（１学期中に指揮者・伴奏者も決定する）		
2学期	**・混声合唱の響きを味わおう（合唱コンクールに向けての取り組み）** ㊍各学級の自由曲 **拡充授業８時間**　合唱コンクールに向け、話し合い活動を行いながら、学級が一丸となって音楽室、教室、体育館で合唱活動を行う。 **☆第５１回校内合唱コンクール　令和５年１０月２３日（月）川口リリア　メインホール**		
	・和楽器に親しもう ㊎箏曲「六段の調」 ㊏平調子の調弦 ㊏さくらさくら **・民謡の特徴を理解して歌おう** ㊍ソーラン節 **・アルトリコーダーを吹こう** ㊏喜びの歌、オーラリー、うみ	**・雅楽の多様な表現を鑑賞しよう** ㊎雅楽「越天楽」 ㊎雅楽「左舞・右舞」 **・和楽器に親しもう（箏学習）** ㊎平調子の調弦 ㊎「荒城の月」 **・構成を理解して鑑賞しよう** ㊎ボレロ、火星	**・歌舞伎に親しもう** ㊎勧進帳 ㊎文楽「義経千本桜」 **・構成を工夫して音楽をつくろう** ㊐ＣＭソングをつくろう **・舞台芸術を鑑賞しよう** ㊎アイーダ
3学期	**・日本とアジアの声によるさまざまな表現を鑑賞しよう** ㊎天台声明、ケチャ　他 **・リズムの重なりを楽しもう** ㊏ジョイフルコンビネーション **・気持ちを込めて表現しよう** ㊍卒業式歌、校歌、君が代 **・１年間の復習をしよう**	**・曲にふさわしい表現を工夫しよう** ㊍浜辺の歌、早春賦 **・郷土の芸能を鑑賞しよう** ㊎鹿踊、獅子舞 **・気持ちを込めて表現しよう** ㊍卒業式歌、校歌、君が代 **・１年間の復習をしよう**	**・気持ちを込めて表現しよう** ㊍卒業生の歌 ㊍卒業式歌、校歌、君が代 **・１年間の復習をしよう**

※㊍＝歌唱、㊏＝器楽、㊎＝鑑賞、㊐＝創作　　※授業内容は変更となる場合があります。

【 美 術 科 】

1　美術科の学習目標

表現及び鑑賞の幅広い活動を通して、美術の創造活動の喜びを味わおう。

美術を愛好する心情を育て、感性を豊かにし、美術の基礎的能力を伸ばし、豊かな心を育もう。

2　学習の方法

・忘れ物せず、必要な画材や用具の準備と片付けを速やかに行って、メリハリある授業にしましょう。

基本的な持ち物…教科書、美術ファイル、筆記用具、美術資料（１・２年生のみ）、PC（指示がある時以外は、各自必要に応じて持ってくる）

指示がある場合に準備する持ち物…12 色色鉛筆、粘土制作に必要な道具、絵の具セット、彫刻刀等

・制作の手順や大切なポイントをしっかりと聞き、積極的に授業に取り組みましょう。

・アイデアは自由で豊かな発想を大切に、アイデアを広げたり深めたりする工夫をしましょう。

・必要に応じてタブレットを活用しましょう。模倣ではなくオリジナルの作品にするためのヒントとなるよう使用しましょう。授業での破損がないよう、扱いには十分気を付けて使用してください。

・作品制作の時間は私語を慎み集中して取り組みましょう。作品は授業時間内で完成させ提出します。

・制作の中で感じた工夫・発見・課題・反省を、次の授業に生かしましょう。

3　学習内容　※「　」内は学習予定の題材名、教科書との関連等

	１年生（年間 45 時間）	２年生（年間 35 時間）	３年生（年間 35 時間）
１学期	・オリエンテーション ・スケッチの基本 「見つめると見えてくるもの」 ・美術バッグ制作 「広がる模様の世界」 ・ロッカーBOX デザイン	・オリエンテーション 「２年生、いまのわたし」 ・立体作品制作 「幾何学模様からイメージを広げて」	・オリエンテーション ・願いと祈りの造形～仏像物語～ 「仏像に宿る心」 ・私との対話 「心のイメージを形に」 「今を生きる私へ」
２学期	・立体作品制作	・一点透視図法 「ルネサンスが目指したもの」 「私の理想の部屋」	・立体作品制作
３学期	・ランプシェード制作 「１枚の紙から広がる世界」	・水墨画 「美しい墨の世界」	・卒業記念制作

4　評価について

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価の対象となるもの	・作品 ・ワークシート ・制作や活動の様子	・作品 ・ワークシート ・アイデアスケッチ ・美術学習カード ・制作や活動の様子等	・作品や提出物の提出状況 ・美術学習カード ・制作や活動の様子等

※定期テストは行いません。毎時間の授業や作品制作、プリント等にしっかりと取り組んでください。

【　技術・家庭科　】

１　学習の目標

［技術分野］では、ものづくりなどの実践的・体験的な学習活動を通して、材料と加工、エネルギー変換、生物育成及び情報に関する知識及び技術を習得し、技術を適切に活用できるようになろう。

［家庭分野］では、衣食住などに関する実践的・体験的な学習活動を通して、生活の自立に必要な基礎的・基本的な知識及び技術を身につけよう。また、家庭の機能について理解を深め、これからの生活を展望して、課題をもって生活をよりよくしようとする力や態度を身につけよう。

２　学習の方法

技術・家庭科は、自分の生活に関係のあることを学ぶ教科です。ですから、ふだんから次のことが必要です。「自分の生活に興味、疑問をもつ」それについて「考える」そして「やってみる」そしてさらに大切なのは「経験を次に活かす（実際生活で実践する）こと」

このようにして、授業で学んだことを自分のモノにしていくようにしましょう。きっと、将来みなさんの生活を豊かなものにしてくれると思います。

３　評価について

技術分野と家庭分野を合わせて評価を出します（各学期同割合です）。

定期テストはそれぞれ５０点ずつの合計１００点です。

以下の３つの観点にもとづいて学習および評価します。□は具体的な評価の拠り所の例です。観点別評価項目の比重は学年、学期、学習内容等でかわる場合があります。

［知識・技能］

□プリント・ワークシート　□定期テスト・実技テスト　□製作品

□作業の様子（用具、道具等の正しい使用・操作等）

［思考・判断・表現］

□製作計画表（計画的な学習や実習・能率的な作業）、製作品

□プリント・学習記録表（学習カード）　□観察の記録（意見・作業・実習の様子）

□調べ学習レポート　□定期テスト・実技テスト

［主体的に学習に取り組む態度］

□プリントやノートの記入　□観察の記録（出席・作業・実習の様子）

□製作品や課題、実習の取り組み状況（提出・進行状況・完成）

□自己評価・相互評価・学習記録表（学習カード）の記入

□学習に向かう姿勢や発言の内容　□作品等への創意工夫、日常生活への応用

４　学習の内容（季節等の条件で、前後が入れ替わることがあります）

［技術分野］

＜第１学年＞・・・年間３５時間

単元（教材）	学　習　内　容
Ｇガイダンス	○技術科の授業とその内容について
Ａ材料と加工に関する技術	１ものづくりの進め方、材料の特徴、設計の進め方 ２木材による製作、製作による反省と評価
Ｂ生物育成の技術	１生物の分類・育種及び生理・生態の特性 ２生育に適切な手入れの仕方と適切な管理 ３生育させるために適した手入れの仕方
Ｄ情報に関する技術	１コンピュータの利用の仕方 ２コンピュータを利用しての簡単な作品の制作 ３制作による反省と評価 ４情報社会について

＜第２学年＞・・・年間３５時間

単元（教材）	学　習　内　容
Ｃエネルギー変換に関する技術	１エネルギー変換について ２電気機器について（安全な利用と保守点検） ３電気機器の設計と製作 （手回し発電機付ラジオ） 製作による反省と評価
Ｄ情報に関する技術	１コンピュータの利用の仕方、情報モラルについて ２コンピュータを利用しての簡単な作品の制作と発表 （プログラムを利用して） ３制作による反省と評価 ４情報社会について

＜第３学年＞・・・年間１７.５時間

単元（教材）	学　習　内　容
Ｄ情報に関する技術	１双方向性のあるコンテンツのプログラミングを利用した問題解決について ２プログラムの設計について ３構想したプログラムを、安全・適切に制作することができる。プログラムの制作について

［家庭分野］

＜第１学年＞・・・年間３５時間

単元（教材）	学　習　内　容
■オリエンテーション	□家庭科の授業とその内容について
Ⅰわたしたちの成長と家族や家庭生活	１わたしの成長と家族・家庭生活
Ⅱ衣生活	１目的に応じた衣服の選択 （１）日常着の活用 （２）日常着の手入れ （３）持続可能な衣生活
（Ⅲ環境と資源）	２生活を豊かにするものをつくる【ファイルカバーの製作】 □環境に配慮した生活
Ⅳ住生活	（１）水と生活との関わり （２）暮らし方を見直す

	１住居の機能と安全な住まい方 （１）住まいのはたらきとここちよさ （２）安全な住まいで安心な暮らし （３）持続可能な住生活

＜第２学年＞・・・年間３５時間

単元（教材）	学　習　内　容
Ⅰ食生活	１食事の役割と中学生の栄養の特徴 ２中学生に必要な栄養を満たす食事 （１）中学生の発達と必要な栄養 （２）さまざまな食品とその選択 （３）日常食の調理 ３日常食の調理と地域の食文化 ※調理実習は安全を考え時期を考えて実施する予定です。よって下記の学習内容と入れかえることがあります。
Ⅱ消費生活・環境	１家庭生活と消費 ２購入・支払いと生活情報 ３消費者被害と消費者の自立 ４持続可能な社会

＜第３学年＞・・・年間１７.５時間

単元（教材）	学　習　内　容
Ⅰ中学生になるまで 子どもの成長 幼児との交流 赤ちゃん・幼児触れ合い体験 Ⅱわたしと家族・家庭と地域	□わたしの成長と家族や周囲の人びと １幼児の成長 （１）体の発達 （２）心の発達 （３）生活習慣 ２幼児と遊び （１）遊びの中で育つ （２）遊びと発達 （３）いろいろな遊び 【幼児と遊べる技術の獲得】 ３幼児の生活に役立つものをつくる （１）遊び道具の製作 （２）幼稚園に行ってみる １家庭生活と地域のかかわり （１）多様な人びとが暮らす地域 （２）高齢者とのかかわり

【保健体育科】

１．学習の目標

・運動量を確保しながら、体力向上を目指し学習規範の確立を図ろう。
・運動の特性や保健分野における知識理解を高めよう。
・学習カード等を活用し、お互いに助言や教え合う姿勢を育てよう。

２．学習の方法

１　授業の受け方

〇服装
・体育着（半袖・短パン）。ジャージは許可がおりるまでは着用不可。
・ハチマキを必ず着用。（教室で付けてくる）
・靴下は学校の規定通り。部活用（サッカーソックス等）は不可。
・シャツの裾は、必ず短パンの中に入れる。袖を折らない。
・腰パンをしてはいけない。
・ジャージは貸し借りしない。
・インナー、タイツは可とするが、タイツの上から靴下を着用する。授業中の着脱は行わないよう、気温を考えて着てくること。

〇髪の毛
・肩にかかる場合はゴムでとめ、運動の邪魔にならないようにする。ゴムの色は、黒、紺、茶とする。ゴムを手首につけない。

〇つめ
・安全のために、短く切り、毎授業必ず各自で点検する。
・常に清潔を保ち、長く伸ばさない。

〇靴
・上履きのかかとは、絶対につぶさないこと。
・外履きは、運動に適したものとする。（ハイカット等は禁止）

２　学習の仕方

〇集団行動
・集合、整列は素早く行う。
・チャイムが鳴る前に号令であいさつをする。
・集団走、準備運動、号令、あいさつなどの声を出すときは元気よく。
・授業終了時の移動、着替えは素早く行う。
・体育委員の指示をよく聞き、自分のことよりもまず全体を優先させる。

〇集中
・集中して指示を聞き、集中して活動する。

〇全力
・全力で活動し、全力で楽しむ。

〇協力
・協力して用具の出し入れを行う。
・安全に気をつけながら、協力して活動する。

３　見学の仕方

・保護者に、生徒手帳に見学理由を明記してもらい、押印またはサインをしてもらう。
・朝、体育委員に知らせた後、担当体育科教員に連絡する。
・体育時の服装で見学。風邪、ケガ等でジャージ着用を希望する場合は、見学申し込みの際に許可を得ること。
・見学でも、できる活動には参加する。

４　テストについて

・実技のテストは、単元ごとに必要な場合は実施する。
・ペーパーテストは、学期末におこなう。
・試験範囲は、基本的に授業で配布されたプリント、説明、実技の教科書の内容から出題される。

５　その他

・時間厳守。絶対に遅れない。
・「体育実技の教科書」「保健の教科書」は、各クラス教室で保管する。

３．学習の内容

【第１学年】（年間１１２時間）	【第２学年】（年間１１２時間）	【第３学年】（年間１１２時間）
【体育分野】 ・体育理論 ・体つくり運動 ・球技 ・器械運動 ・水泳 ・陸上（長距離走を含む） ・武道 ・ダンス 【保健分野】 ・健康な生活と疾病の予防 ・心身の機能の発達と心の健康 ・AED 実習	【体育分野】 ・体育理論 ・体つくり運動 ・球技 ・器械運動 ・水泳 ・陸上（長距離走を含む） ・武道 ・ダンス 【保健分野】 ・健康な生活と疾病の予防 ・傷害の防止 ・AED 実習	【体育分野】 ・体育理論 ・体つくり運動 ・球技 ・器械運動 ・水泳 ・陸上（長距離走を含む） ・武道 ・ダンス 【保健分野】 ・健康な生活と疾病の予防 ・健康と環境 ・AED 実習

４．評価について

（１）評価の観点

①保健体育的な知識・技能

基本的な知識を身につけているか、基本的事項が理解されているかを見ます。
また、運動の特性を理解し、正しい身体の動かし方をしているかを見ます。

②保健体育的な思考・判断・表現

さまざまな見方や考え方ができ、公正に判断して、適切に表現できるかを見ます。

③保健体育の主体的に学習に取り組む態度

保健体育への関心が高く、意欲的な姿勢で活発に取り組めているかを見ます。

（２）評価の仕方

３観点をそれぞれＡ・Ｂ・Ｃの３段階で評価し、これに基づき５・４・３・２・１の５段階で評定します。

（３）具体的な評価の方法

授業態度や発言の様子、提出物、定期テスト、忘れ物等を組み合わせて評価します。

南浦和中学校１年　グローバル・スタディ科

学　習　到　達　目　標
外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方を働かせ、外国語による言語活動を通して、コミュニケーションを図る基礎となる資質・能力を育成する。

学期	課	題材	学習内容
1学期	0	Classroom English / Get Ready	授業で用いられる英語表現や教員が用いる英語表現を確認する。
		アルファベットを確かめよう	アルファベットの形、つづり字、発音を確認する。
	1	友だちを作ろう	be動詞を用いて自分の好みなどについてやりとりする。
	2	1-Bの生徒たち	一般動詞を用いて友だちにインタビューする。
	ST1	英語でやりとりしよう①	be動詞、一般動詞、疑問詞の疑問文を用いて質疑応答をする。
		アクションコーナー	命令文の表現を用いてやりとりする。
	3	タレントショーを開こう	canを用いて自分のできることやできないことについてやりとりする。
	ST2	考えを整理し、表現しよう	自分の好きなことについて発表する。
	OP1	あなたの知らない私	相手にわかりやすく自己紹介をする。
2学期	PU1	ハンバーガーショップへ行こう	店での注文の仕方や表現を用いてやりとりする。
	4	Let's Enjoy Japanese Culture.	This/That is～、代名詞を用いて日本のものなどについて発表する。
	PU2	持ち主をたずねよう	which、whoseを用いて、持ち主についてやりとりする。
	5	The Junior Safety Patrol	三人称の主語を用いて有名人についてスピーチする。
	6	The Way to School	代名詞を用いた文の構造を理解し、好きな映画を相手に紹介する。
	PU3/4	道案内をしよう① / 店内放送を聞こう	道案内のやりとりをする。/店内放送を聞いて、その内容を理解する。
	7	Research on Australia	There is/are～ /How can we～?を用いて日本文化について紹介する。
	ST3	話の組み立て方を考えよう	わかりやすい構成を考えながら、あるトピックについて発表する。
	ST4	英語でやりとりしよう②	さまざまな疑問詞を用いてやりとりする。
	OP2	この人知っていますか	自分の好きな人についてスピーチをする。
3学期	PU5	インタビューを聞こう	インタビューに必要な表現を理解する。
	8	The Year-End Events	現在進行形を用いて世界の祭りの様子について考えたことなどを発表する。
	ST5	絵や写真を英語で表現しよう	絵の情報について適切な英語を用いて説明する。
	9	A Trip to Finland	一般動詞の過去形を用いて自分の経験に基づいて手紙を書く。
	ST6	文の内容を理解し、表現しよう	現在進行形及び一般動詞の過去形を用いて内容について説明する。
	10	Grandma Baba's Warming Ideas!	be動詞、不規則動詞の過去形を用いて英語劇を発表する。
	ST7	英語でやりとりしよう③	現在・過去進行形・過去形を用いて質疑応答する。
	OP3	私が選んだ１枚	自分が選んだ写真や絵について論理的にスピーチする。
	PU6	絵はがきを書こう	自分の近況について海外の人に対して絵はがきを書く。

５領域 ３観点	聞くこと	読むこと	話すこと（やり取り）	話すこと（発表）	書くこと
観　点	主　な　評　価　方　法				
知識・技能	・定期テスト　・授業内アクティビティ　・リスニング　・パフォーマンステスト　など				
思考・判断・表現	・定期テスト　・英作文　・作品の制作　・授業内アクティビティ ・リスニング　・パフォーマンステスト　など				
主体的に学習に取り組む態度	・授業内での発言や積極性　・授業内アクティビティ　・プリント等での記述や振り返り　など				

南浦和中学校２年　グローバル・スタディ科

学　習　到　達　目　標
外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方を働かせ、外国語による聞くこと、読むこと、書くことの言語活動を通して、簡単な情報や考えなどを理解したり表現したり伝え合ったりするコミュニケーションを図る資質・能力を育成する。

学期	課	題材	学習内容
1学期	0	進級おめでとう　辞書を読んでみよう	前年度既習の文法事項を確認する。辞書の使い方を確認する。
		Classroom English	クラスルーム・イングリッシュを使いながら内容を確認する。
	1	Start of a New School Year	未来表現 be going to / will や接続詞 When ～ / If ～を使って意見交換をする。
	ST1	情報をつなげ、メモをとろう	インタビューの内容を聞き取ったり、質問に答える。
	2	Leave Only Footprints	SDGsについてmust / mustn't / (don't) have to / I think (that) / I don't think (that) ~.を使ってグループプレゼンテーションを行う。
	PU1/2	天気予報をきこう/ 電話をかけよう	天気予報を聞き取る。/ 電話のやり取りを行う。
	3	Taste of Culture	不定詞を使って各国の食べ物を紹介する。
	ST2	文章の構成を考えよう	行きたい場所についてつなぎ言葉を使って英文を書く。
	OP4	「夢の旅行」を企画しよう	「夢の旅行」を企画して、プレゼンテーションを行う。
2学期	R1	Gon, the Little Fox	（復習Reading）
	4	High-Tech Nature	留学生に対して比較表現を使って日本について紹介しあう。
	5	Work Experience	職業体験や将来の夢について疑問詞＋不定詞 / look 形容詞 / SVOOを使ってスピーチする。
	PU3	レストランで食事をしよう	レストランでのやり取りを行う。
	6	Live Life in True Harmony	新しいALTに日本のことをbe動詞+過去分詞を使って紹介する。
	ST3	会話をつなげ、深めよう	あいづちや疑問文を用いて好きな人物について会話する。
	OP5	こんな人になりたい	人物について紹介ポスターを作成する。
	R2	Writing a Report	読んだ記事を読み手にわかりやすくまとめる。
3学期	7	A Gateway to Japan	学校のことについて現在完了形を使ってディスカッションを行う。
	ST4	相手にわかりやすい説明をしよう	相手にわかりやすく説明をする。
	PU4	空港のアナウンスを聞こう	空港のアナウンスを聞いて、確認をする。
	8	A Hope for Lasting Peace	世界平和の実現に向けて現在完了形・進行形を使って話し合う。
	PU5	メールで近況報告をしよう	メールで自分の近況を報告する。
	OP6	この１年で得た「宝もの」	テーマについてまとまりのあるスピーチ原稿を書き、スピーチをする。
	R3	Visas of Hope	英文を読んで、要約文を書く。物語や説明文を読んで、自分の考えを書く。

５領域 / ３観点	聞くこと	読むこと	話すこと（やり取り）	話すこと（発表）	書くこと
観　点	主　な　評　価　方　法				
知識・技能	・定期テスト　・授業内アクティビティ　・リスニング　・パフォーマンステスト　など				
思考・判断・表現	・定期テスト　・英作文　・作品の制作　・授業内アクティビティ ・リスニング　・パフォーマンステスト　など				
主体的に学習に取り組む態度	・授業内での発言や積極性　・授業内アクティビティ　・プリント等での記述や振り返り　など				

南浦和中学校３年　グローバル・スタディ科

学習到達目標
外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方を働かせ、外国語による聞くこと、読むこと、話すこと、書くことの言語活動を通して、簡単な情報や考えなどを理解したり表現したり伝え合ったりするコミュニケーションを図る資質・能力を育成する。

学期	課	題材	学習内容
1学期	0	辞書を使いこなそう	辞書に書かれている情報について確認する。
	1	Bentos Are Interesting!	It＋be動詞＋～(+for)＋to不定詞を用いて伝えたり、相手からの質問に答えたりする。
	St1	ディベートをしよう	テーマについて、論理的な根拠を整理してディベートをする。
	2	Good Night. Sleep Tight.	間接疑問文を用いて、自分の考えや意見を伝え合う。
	3	A Hot Sport Today	SVOCの文を用いて、スポーツについてまとまりのあるスピーチ原稿を書く。
	St2	メモの取り方を学ぼう	5W1Hを意識しながら、メモを取り、それをもとに話の内容について話し合う。
	OP7	記者会見を開こう	わかりやすいスピーチをし、まとまりのあるブックレポートを書く。
2学期	R1	Faithful Elephants	話の要点やおすすめポイントなどを整理し、まとまりのあるブックレポートを書く。
	PU2	買ったものを交換しよう	店員役と客役に分かれ、買ったものの問題点を伝え、交換を求めるやりとりする。
	4	Sign Languages、 Not Just Gestures!	現在分詞や過去分詞の形容詞の用法を用いて自分の考えをディベート形式で伝える。
	PU3	ホームページで学校を紹介しよう	現在分詞や過去分詞の形容詞の用法を用いてHPの形で、学校の行事や部活動など伝える。
	St3	簡単な表現で言いかえよう	類義語や、難しいものを簡単に説明する。
	5	The Story of Chocolate	関係代名詞の文をディベートで用いて伝えたり、相手からの質問に論理的に答えたりする
	St4	わかりやすい文章を考えよう	つなぎ言葉や文章の構成を意識して、英文を読んだり書いたりする。
	6	The Great Pacific Garbage Patch	関係代名詞の目的格（which/ that/ 省略）を用いてSDGsについて事実や自分の考えを整理して伝えたり、相手からの質問に対して答えたりする。
	St5	ディスカッションをしよう	テーマについてディスカッションをし、結論を導く。
	OP8	あなたの町を世界にPRしよう	ペアで地元のものや場所についてわかりやすく魅力的にPRをし、一番よいPRについてディスカッションする。
	PU 4	非常時のアナウンスを聞こう	アナウンスを聞いて、重要な情報を聞き取る。
	7	Is AI a Friend or an Enemy?	自分の考えていることやその理由などを、仮定法過去や接続詞などを用いて話す。
	R2	Malala's Voice for the Future	有名人についての話を読み、事実や自分の考え、気持ちなどを書く。
3学期	SP	中学校の思い出を残そう	中学校の思い出について、クラスやグループで内容や発表方法を考え、紹介する。
	FR1, 2	The Ig Nobel Prize/Library Lion	物語や説明文などを読んで内容を理解し、自分の考えや感想を伝え合う。
	RS	Reading Steps	物語や説明文などを読んで自分のことや考え、知りたいことなどを書く。

５領域／３観点	聞くこと	読むこと	話すこと（やり取り）	話すこと（発表）	書くこと
観　点	主　な　評　価　方　法				
知識・技能	・定期テスト　・授業内アクティビティ　・リスニング　・パフォーマンステスト　など				
思考・判断・表現	・定期テスト　・英作文　・作品の制作　・授業内アクティビティ ・リスニング　・パフォーマンステスト　など				
主体的に学習に取り組む態度	・授業内での発言や積極性　・授業内アクティビティ　・プリント等での記述や振り返り　など				